

♪「第7回 東北アコーディオン・ジャンボリー in 二本松」ぶらり訪問記♪

2019年11月9日(土)二本松市岳温泉あだたらふれあいセンター～10日(日)福島男女共生センター

主催:第7回 東北アコーディオン・ジャンボリー in 二本松実行委員会

後援:NPO 法人日本アコーディオン協会／二本松市／二本松市教育委員会

協賛:関東アコーディオン演奏交流会

東北アコ・ジャンボ/プレイイベント

☆11月9日(土)15:00～

会場 あだたらふれあいセンター



■はじめに・・・「きょうは東北アコ・ジャンボ/プレイイベントということでお集まりいただきました。お客さんに聴いていただく明日に向けて参加者の交流の場です」と司会より想いの説明です。

■主催者を代表して石川晃雄さんのあいさつ



私ども、アコネット～f～、福島県内のアコーディオン仲間が第7回を引き受けるにあたって、2つのことを考えてきました。1つは、来年のNHK朝のドラマで福島市出身の作曲家、古関裕而

さん夫婦の物語『エール』の放映が予定されているので、古関裕而さんの曲を演奏することで皆さんに福島出身の作曲家を知っていただきたいということ。

もう1つは9年前に二本松では震度4の地震があったことを覚えているでしょうか、相当強かった、あれが1年後の大震災の前触れだったのではないかと考えています。今年は、ちょうど台風の通り道になって隣の本宮市の被害が大きかった、聞くところによると1300戸ほどの家と土地が被災されたと聞いております。

そういうふうに全国各地で災害がありましたけれ

ども復興への絆を深めることとしても成功させたい。そういうことで、中身としては「コラソン・デ・オロ」と「高原列車は行く」を絆を深める上で東京の皆さんと一緒に演奏してはどうかと提案しました。

他にもう1つ、きょう新井幸子さんを講師にお招きして「トーク&演奏」をお願いしております。是非元気をもらいたいと思います。

■事務局長、遠藤勇さんのあいさつ

二本松、福島の皆さん引き受けていただいて本当にありがとうございます。



思い返すと、東京にいるとき関東アコの方、三多摩教室の皆さんのお世話になって、突然仙台に帰るって言った時に、住む所を探す

から帰らないでって言われたときには涙が出るほどうれしかった。アコーディオンの友達の絆っていうか、アコーディオン文化って素晴らしいなあと、でも仙台に帰って来て、早速、JAAの会員を頼りに手紙を送りました。石川さんの反応が一番早く、あの時は本当にうれしかったことを思い出しています。

第1回目は、どうなることやらと思いましたが、廃校になった小学校を改修した宮城県の研修センターで意義ある初めての大会を開催しました。(2007年11月17日/土～18日/日、加美町中新田交流センターで開催:編集部)

大体1年半ごとに開催しようと、そんな感じで各地区のアコーディオン仲間のかと、関東の皆さんのバックアップで続けて7回目となりました、これからもよろしく願いいたします。

《トークと演奏》

企画では、プレイイベント最後の予定でしたけれど、東京から参加する方の楽器を積んでふれあいセンターに向かっている車が渋滞で1時間ほど遅

れることがわかり、急遽順番を入れ替え「トークと演奏」からの進行となりました。

話すのは新井幸子さん。テーマは「アコを担いで街に出よう～修羅場を乗り越えて～」

まず皆さん1曲うたいませんか、と問いかけて「高原列車は行く」のうた伴から始まる。

■新井幸子さん・・・1曲うたったところで自己紹介。みなさんこんにちは埼玉から来ました新井です。ほとんど毎日どこかへ出かけて行ってアコーディオンを弾いています。(遠くは長野、新潟まで足を運ぶ) そんな生活ですが、70過ぎてはどうして行きたいのかなって考えると、行く先々でみんな待っていてくれてうたを楽しんでくれる、アコーディオンを喜んでくれる、そのことが私の元気のもとだと思うんです。帰るときには、皆さんから元気を頂いたわって言って帰ってくるんです。

ところで、「修羅場を乗り越えて」という話なんで



ですが、修羅場をむかえるってみなさん分かりますか、皆さん「弾けるようになったら行くわ」っていうんですね。いまでできるところでいいから人前で弾けば、そこから1歩進める。右手だけでもいいそれで出掛ければそこが修羅場かもしれない。そこを通らないと次に行かれないと私は思うんです。1人で練習しているだけではなかなかその1歩が踏み出せないと思っています。

みんなそれぞれ、今持っている力、今弾けることがあと思うんです。そこが出発点、今持っている力で人々の前で弾く、そうして一緒にうたってくれる人たちの力を借りて上手くなっていく。私は、ここに来て話そうと考えたのはそういうことです。だから私は他人の力をたくさん借りてきました。

あるとき、「右手で弾いて左手の伴奏はどうやって入れたらいいんですか」って聞かれたことがあります。伴奏っていうと「伴に(ともに)」って書くんです

けど、例えば、うたが主で伴奏はそれを盛り上げるとか、伴奏はうたを引き立てる役、そんな風にずっと思っていたけれども、最近は、そういうものじゃないって思うんです。うたい手と一緒に1つのうたをつくりだすっていうように考えるようになりました。伴奏という言葉がいけないのかな？一緒にこのうたをうたうんだっていうように思ってもいいんじゃないかなと思っています。

でも、できることの“レベル”があるでしょ、「右手しか弾けない」という人は、ブンチャッチャなんて入れないで右手だけで弾けばいい。わたしもそうだけれどみなさんも、合唱団の伴奏をアコーディオンでする機会はあまりないと思うんです。私たちのアコーディオンを待っている人たちは合唱団のようにピアノ譜があつて、合唱譜があつて、そこにアコーディオンがどう入るかというのではないので、昔はハーモニカが1本あると歌えたって思うんです。上手な人は伴奏を入れたりするけれども、メロディーをきれいに演奏するわけでしょ。だから、メロディーをきれいに演奏することをまず1つは目指したい。そのための技術っていうのはいろいろあると思うんですね。私も最初のころは“やかましい”って、“それで音楽やっているつもりなの”って言われていました。蛇腹の使い方なんですね。

もう1つは、楽譜がなくてうたの伴奏をすることがあと思うんです。多分、知っているメロディーだったら弾けると思うんです。また、楽譜があつても音を下げるとか、そんなときに困らない練習として使えるのは、「知っているメロディーをドレミで歌う」練習。例えば「夕焼け小焼け」だったら(ソソソラ ソソソミ ドドレミ)でしょ、いつも音符にかじりついていると、この音符はこの鍵盤っていうふうに私たちは覚えるから隣の音符との関係を1つのカデンツとして覚えられないので、音符がないと弾けないっていうことになるんですね。そこを、移動ドで歌えるようになると、井(シャープ)が2つ付くと(ニ長調)だからニ長調の「ソ」、ハ長調でみると「ラ」の鍵盤からソソソラソソソミどうたいながら弾けば「夕焼け小焼け」になるので、どんな調でも「夕焼け小焼け」を弾くことができる。なので、移動ドでやってみるといいと思います。まずはメロディーを弾けるようになりたい。

次はコード、左手も、ブンチャッチャの、チャッチ

やは後まわしにして最初はベースボタン(ブン)だけでそのコードの付いている長さ押さえてブーっと延ばす、そしてメロディーを弾いてみるだけでもいいと思うんです。ソソノとメロディを弾いている間コードの「G」だけ押さえて鳴らすだけ。とにかく最初はメロディーをきれいに弾きたい。まずは自分の持っているレベルで、今こんなの練習しているんだけどちょっと聴いてみて、弾いてみる。できたらうたってみて言えるといいなと思います。そこで失敗をするでしょ、でも、失敗をしなければ次に行かれないって思いながらそれを精いっぱいやる。

私と同じ教室の人で、6歳ごろからピアノを習っていて、「卒業写真」っていう曲を一生懸命練習して、これだったら大丈夫と思って教室の発表会で弾いたらズレちゃった。あれだけ練習してどうして間違えたんだろうかっていろいろ考えたそうです。練習は十分やった、何が違うんだろうかってね。彼の出した結論は、“人前でドキドキして弾いたことがないから”それが彼なりの結論なんです。で、彼は人前でやりたいって、何をしているかという、他人の通る路上で演奏しているんです。今3曲目を練習しているってしていました。桜の咲く頃上野公園へ行ったとか、立ち止まる人もいりけれど多くは通り過ぎていくんです。でも、それをやるっていうことは彼の凄い優れた資質じゃないかなと思います。彼のように他人の通るところでやるのも手だなと思います。

また、80過ぎた人ですけども、同窓会を毎年やっているそうで、アコーディオンを必ず持って行き、2曲しか弾けないからって2曲弾くんだそうです。それから私たちの年代だと、ボランティアで施設に行き行って弾くとか、そういう場面を作るいいなと思います。私たちのアコーディオンを聴く人たちって、上手なアコーディオン演奏を聴いたことがないので、だからいいかげんでいいっていうことじゃなくて、アコーディオンのしみじみとした音は「アコーディオンっていい音ね」ってお年寄りはずごく喜ぶんですね。だから今弾ける曲を片手でもいいからやってみる。それがいいなと思います。そこは、自分では修羅場だと思っても、そこで聴いている、うたっているお年寄りたちはかっこ悪いなんて思っていない。「やっぱりアコーディオンって懐かしい音色ね」って言ってくれたら嬉しいじゃないですか、そんな風に思います。

楽器にも心があると思うんです。聴いてくれる人も、楽器にも喜んでもらう。そういませんか、そういうことをこの間ずっと考えてきました。ある施設で、おじいちゃんやおばあちゃんの前でこういう曲はどうなんだろうと思いつながら「主よ人の望みの喜びよ」を弾いたんです。そうしたら「教会にいるようだよ」って、そういう反応がとつともうれしかったです。また、歌謡曲全集の、ひよいとめくったページの曲を弾く。そうしたら「城ヶ島の雨」が出て来ちゃって、難しいなと思いつながら弾きました。そうやっていろんな機会にやることが上達の1番じゃないかなと思います。まず1歩を踏み出すには今の力で十分だと思います。

質問コーナーで、「主よ人の望みの喜びよ」を弾いてみてください。どリクエストがあり、いま修羅場



の話をしたところなので弾いてみますけど、と演奏する1幕も。(写真は演奏の様子)しっかりと演奏に皆さん

納得していました。その後、「青い山脈」「高校三年生」他うたっていると楽器が到着してセミナーは終わりました。下の写真は会場の様子



《東北・関東絆の合同演奏曲練習》

合同練習の最初は「コラソン・デ・オロ」

指揮者からコメント・・・日本語では「黄金の心」と訳されているようです。いま初めて譜面を見る人もいます。全員参加ということで、まずテンポを遅くします。1人に任せるところがあります、後半を一部省略しています。フランシスコ・カナリー氏には怒られてしまうかもしれませんがこれで試しにやってみます。そんな説明があり早速練習開始。

「コラソン・デ・オロ」(指揮:石川晃雄さん)



2曲目は「高原列車はゆく」

指揮者からコメント・・・この曲は古関裕而さんの曲ですけど作詞の丘灯至夫さんも福島県の方ですよ、福島県に非常に意義のある曲です。急がずゆっくり演奏したいと思います。最初に汽笛が入ります。みなさんは汽笛の後ベースがズンチャ、ズンチャと4拍刻んだ後から入って下さい。この一緒に入るところはmf(メゾフォルテ)と書いてあります。ピタッと合わせて一緒に元気よく入って下さい、指揮を見て合わせてください。明日の本番では会場の皆さんにうたってもらいます。プログラムに入れる歌詞は2番までなので2番までで終わります。そんな説明があり練習開始。写真は「高原列車は行く」練習の様子(指揮:矢部重光さん)



.....休憩.....

《夕食・懇親会》

司会者から・・・夕食の交流会でも大いに弾いてもらおうと思っていたのですが、他の団体も利用していて、隣の部屋でも食事をされているので大きな音はだめ、ということです。最初の歓迎演奏1曲だけは隣のお客さんから許可を頂いたので演奏しますが、残念ですがこの1曲だけにさせていただきますと説明があり懇親会が始まりました。

代表者あいさつ(石川晃雄)・・・JAA、二本松市、市教育委員会から後援をいただいていること、関東アコの協賛、東京の橋本千香子さんからメッセージとカンパ、その他差し入れのお礼と報告がありました。

最初に歓迎演奏をしてから乾杯を行います。その後、参加者の団体ごとの紹介をしていただきますのでよろしくお願いいたします。ということで歓迎演奏「イヨマンテの夜」ですが、この歌は菊田一夫作詞、古関裕而作曲、地元本宮の伊藤久男が歌っています。この曲をアコネット全体でやろうかっていう提案もあったのですが、準備が間に合わなかったので3人が代表して歓迎演奏とします。(写真左から岸さん、矢部さん、佐藤さん)



乾杯のあいさつ(池田健)・・・ここにいる遠藤さんが仙台に戻ってからはじめてたわけですが、交通網が発達している関東と違って、すごく広いところで苦勞してやっついて7回目を迎えたっていうことはすごいことなんだなと思っています。

個人的なことでは、「ジュピター」をやったのは第4回ですか、関東からも10何人か集まって、東北からも20人以上集まってバックに20人ぐらいの男性合唱団が入って、今日も見えている佐藤正助さんに尺八で入ってもらい皆で「ジュピター」をやったことを良く覚えています。あの時のようなことをまたやりたいなと思っています。

では、第7回東北アコーディオンジャンボリーの成功を祈念して“乾杯”

■食事をとりながら順次参加者の紹介。

東京・三多摩教室のみなさん・・・三多摩教室からは今まで4人で来ていたんですけど、今回は女性が1人加わり5人で来ました。東北アコ・ジャ

ンって楽しいよ、勉強になるよって言ったら、是非行ってみたいというので5人で来ました。明日の演奏には遠藤さんにも入っていただいて東京と仙台のコラボで行きたいと思っています。私ごとではアコネット福島の矢部さんとデュオをやりたいと思っています(拍手)いろんな広がりができたかなと思っています。(石橋さん)写真左から石橋さん、本荘さん、茅根さん、菊地さん、山口さん。

私は、震災後毎年来ていて、生まれたのは福



島県の杉田の辺りなんです。東京に住んでいて、空襲が激しくなり兄弟と一緒に私もおふくろのお腹の中にいるときに疎開にきました。生まれて1年半後に終戦、それから小学校に上がる前まで杉田の辺りの山、川で遊んでいました。その当時の記憶が脳裏に残っています。遠藤さんは、三多摩教室のOBですからここで活躍しているっていうことはすごい励みになります。(菊地さん)

私は本当にドレミが弾けなくて教室に入ったんです。そうしたらベテランぞろいで、やめようかなと思ったけど、頑張っている教わり、ありがたい4年間でした。(遠藤さん)

アンサンブル小川のみなさん・・・東京から来ましたアンサンブル小川です。9人で活動しているんですけども、きょうは4人で来ました。池田さんも菊地さんもメンバーです。明日も演奏させていただきます。(織田さん)写真左から榎本さん、藤澤さん、織田さん、北村さん。



アコーディオンのアクセサリーと曲集を持ってきて皆さんに買っていただいています。売り上げの一部はジャンボリーに寄付させていただきます。(北村さん)

コラボA&P・・・勝手な名前を付けたんですけど、2人は大学時代の同級生で、同じ団地で40年ぶりぐらいに会いまして、アンサンブル・オクテットで今8人でやっているメンバーの二人です。トランペットのことを“ペット”と



言っていますがアコーディオンとトランペットという意味です。彼は今日ヤマハのコンサートに参加していて明日合流します。(遠藤さん)

埼玉から・・・住まいが所沢なので埼玉と紹介



されたと思います。遠藤さんがアコーディオンを東北でやりたいって思って日本アコーディオン協会の名簿を頼りに想いを送り、それに皆さんが応えてこういう会になったっていうのは素晴らしいなど、何かやりたいとか、たいていの人は思う、私も思うんだけど、そこから先に進めるっていうのはなかなかない、それは、考えた人の力、それに応えた人たちの力ってあるけど、これは、アコーディオンっていう楽器の性格なのかなって、アコーディオン仲間っていうのは、全然知らなくても昔から知っているように思うんですね。そういう楽器だなんて思いました。私は東北でこういうことをやっているって知らなかったし、石川さんから「トークと演奏をして欲しい」と電話をいただいて、私には向かないと思うけれども、アコーディオンへの想いは一杯あるのと、アコーディオンは素敵ねっていう人は弾く人だけじゃないんですね。ここにいる人たちだけではなくて周りにたくさんそう思っている人がいることを皆さんも自覚して、上手く弾けるから素晴らしいじゃなくて、アコーディオ

ンの素晴らしさをもっと広めていきたいなど今日は思いました。(新井さん) 写真中央



私は新井さんの追っかけをやっています。新井さんはどの歌声に行ってもボーカールフェイスでなさっている、それでこちらまで付いてきました。今日は素晴らしい日本酒とご馳走で満足です。(吉原さん)

関東アコ事務局から・・・今回は実行委員会として演奏の取り組みができなかったのが個人として池田さんと二人で取材のための参加となりました。関東アコのニュースで紹介して、原稿はホームページにアップしているのでたぐっていくと第1回目からの様子を見ることができると思います。皆さんも関東で演奏していただけるのが一番いいんですけども、東京からちょっと距離があるので、聴きにきていただけるだけでもアコ仲間を紹介できるのかなと思います。(乙津:筆者)

岩手県一関から・・・今年は仙台の「ジャズフェ



ス」で神楽をやることになり、話題性のあることからテレビ局やら新聞社やらに追っかけられて、そのおかげでお客さんが大勢来てくれて盛り上がり、その準備が相当大変だったからアコーディオンに触るのは月に1回、うた声で弾くくらい。去年やった曲はもうだめだし、新井さんが来るから刺激だけでも受けにと来ました。

実は、台風19号で田んぼが見事にぐしゃぐしゃにやられて、稲の倒れが一方向だとバインダーが起こしてくれるみたいなんだけど、渦を巻いているようにいろんな方向に倒れているから絡まって使えないので、手で刈り取るんだけど1週間やってい

るけどまだ半分も刈取れていない。今日も午前中稲刈りをしていたんです。そんなことで演奏は失礼いたしました。(東京から岩手に移住し『源義経一代記』など神楽の保存に力を入れている佐々木忠雄さん)

アコネット～f～・・・アコネット福島は、福島



県内のアコーディオン愛好家のネットワークです。メンバーは13人です。アコーディオンの音色のよさという細い赤い糸でつながっているんです。今この席にいるメンバーは、私石川と、司会の佐藤正助さん、写真左から鈴木さん、飛田さん、山林堂さん、矢部さん(アコは大学時代にやっていました)、岸さん(若手 No.1 の声、皆さんに教えてもらいながら楽しくやっています)。

実行委員から・・・石川正子です、いろんな会場で皆さんにお会いするのを楽しみにしています。明日のために料理をたくさん食べてください。



女性陣は、私石川と、杉内さん(写真中央)、池田さん(写真右)です。

明日司会を致します渡辺です。



うたごえサークル ありんこ(福島・二本松)のメンバーです。私たちも明日3曲歌いますけれど、みなさんの演奏を聴くのが楽しみです。

福島県男女共生センター

■ 11月10日(日) 13:00~15:00

■福島県男女共生センター 1階研修ホール
ここからは本番の様子をお伝えします。プログラムは休憩を挟んで2部に分かれています。第1部からプログラムに沿ってみていきます。

第1部

1、オープニングはアコネット〜f〜による「栄光は君に輝く」この曲は古関裕而作曲で全国高等学校野球大会の歌として知られている曲です。今日の演奏は矢部重光さん(指揮をされている)の編曲です。後半は歌いながらの演奏でした。



あいさつ・・・アコーディオン・ジャンボリーという大変大きなタイトルですが、東北の仙台、一関、東京、関東の各県からアコーディオンの仲間たちが復興の絆を深めようということで集まっていたきました。時間は限られておりますけれどもアコーディオンの音色を存分に楽しんで頂ければと思っております。本日はどうもありがとうございました。



司会 渡辺ルリ子さん
うたごえサークルありんこのメンバー

2番目は「コラボA & P」(仙台)による演奏。2人は大学時代の同級生で、クラリネットとトランペットで「青春のメドレー」(シュワジヴェチカ・もみじ、河はよんでいる、をメドレーで「もみじ」ではトランペットの後をクラリネットが追いか



ける輪唱のような演奏でした。2曲目はクラリネットをアコーディオンに持ち替えて「夜明けの歌」を演奏。

3番目は岸邦幸さん(福島)による演奏。アコーディオンを始めて8年ぐらい、アコネット〜f〜に入ってから3年ぐらいだそうです。曲は「人生のメリーゴーランド」を暗譜で弾いていました。



4番目は本荘雪子さん(東京)による演奏です。曲は「ノクターン NO.20」この曲は、ショパンの遺作とも言われています。映画「戦場のピアニスト」の曲ともなっています、と司会の紹介です。



5番目は Trio Sound of sky (福島)による演奏です。skyのSは尺八を吹く佐藤さん、Kはカホンの岸さん、Yはフルートの矢部さんによるトリオの頭文字でなお且つ、スカイは空、空気、息を吹き込む楽器でコラボレーションするということで付けた名前だそうです。曲は「コンドルは飛んで行く」。



6番目はアンサンブル小川(東京)による演奏です。1曲目はソロで「ベルベツト・ワルツ」(演奏したのは写真左から2人目の織田さん)この曲は昨年の東北アコーディオン・ジャンボリーで知り合ったハーモニカ奏者の林博太郎さんのハーモニカ演奏(デュオ)を東京で聴いてとても素敵だったのでアコーディオン用に編曲して練習してきたとの紹介です。2曲目は4人で「パリの空の下」を演奏。



写真は、4人で「パリの空の下」を演奏の様子

7番目は三多摩アコーディオン教室（東京）による演奏です。東京の三多摩地区でアコーディオンを楽しんでいるグループで、仙台の遠藤勇さん（先ほどクラリネットを吹いた）も東京に住んでいたときに一緒に練習していた仲間なので今日は加わったの演奏ですと6人で「サウンド・オブ・ミュージック」を演奏しました。



.....10分間休憩.....

第2部

8番目（2部の最初）は東北・関東合同演奏です。今回参加の団体皆さんで演奏、1曲目は「コラソン・デ・オロ」曲の後半は演奏者皆さんうたいながらの演奏でした。2曲目は「高原列車は行く」（写真は演奏の様子、指揮：矢部さん）こちらは、会場の皆さんと一緒に歌う中で演奏です。



9番目はゲスト演奏

うたごえサークル ありんこ（福島二本松）

司会者コメントによると、地域の青年活動の中で生まれ結成41年目になるそうで、メンバーは20代から70代の構成で、2カ月に1回道の駅福島東和などでうたごえ喫茶を開催しているとのこと。うたは「フクロウの独り言」「あなたに」「カントリー・ロード」



10番目はフレンズ・ドリーム（仙台）による演奏。プログラムの変更があり、12番を10番と入れ替えての演奏でした。

佐藤厚志さんと利枝子さんは夫婦で、結成して25年目だそうです。フォークソングは結成当時から演奏会の場に参加していて、アコーディオンはまだ6年目だけれど、



アコーディオンにとっても面白みを感じているとのコメントです。夫婦で目が不自由だけれど演奏させていただきますと、「トウクマンの月」と「千曲川」の2曲演奏。厚志さんの太くてよく通るうた声には感情がこもっていて、コメントにあったようにフォークソングが大好きなんだなと思いました。



11番目は矢部重光さん（福島）による演奏。今日の演奏のために相当練習をしたとコメントがあり、「ドナウ河のさざ波」を演奏。軽快なテンポで素敵な演奏でした。

12番目は石橋友子さん（東京）による演奏。石橋さんは福島に住んでいるお母さんの看病もあって福島と東京を往来しているとのこと、曲は「カリンカ」ロシア民謡で、アコーディオンの楽しさ、



いろいろなテクニックが盛り込まれているとのコメントです。ゆっくりしたテンポ、早いテンポ、スタッカート、ベローシェイクと変化にとんだ素敵な演奏でした。

13番目は、縁・遠距離による演奏。

偶然2人は郡山出身と分かり意気投合し、年齢も近いということで急きょ結成したといいます。励ましながらここまで練習してきた曲「見上げてごらん夜の星を」を演奏。



14番目は新井幸子さん（埼玉）による演奏。新井さんは、前日の「プレイベント」で伴奏の形とか、今持っている力でいいから人前で弾いて修羅場をくぐらないと駄目だと話され、自身は週に6～7回うたごえ喫茶であつたり、施設などで演奏されていて、喜んでもらえるところだったらどこへでも出向いてアコーディオンを演奏したいという方です。曲は「イル・ポステイーノ」



15番目は中村一さん（福島）の演奏「ピア樽ポルカ」の予定でしたが、風邪をひかれて辞退されたとのことで、「みんなで歌いましょう」タイムになりました。プログラムに載せてある古関裕而さん作曲の「智恵子抄」と「高原列車は行く」、智恵子抄は二本松では有名なんですけど全国ではそうでもないようなので東京の方に覚えていただきたいとのことでした。アンコールがあり、最後に「長崎の鐘」を一緒にうたって幕となりました。写真は伴奏する矢

部さん（左）と新井さん（右）他は会場の様子。



見送り演奏 ロビーにて、「今日の日はさようなら」の演奏で退場されるお客さんを見送られていました。演奏しているのは矢部さんと新井さん。



■東北の皆さん大変お世話になりました。これからも元気で活躍ください。またお会いしましょう！

（文責：乙津）